

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻  
アドバイザーボード（教育課程連携協議会）2020年度会議 議事録

日時：令和2年12月7日（月）18：00～20：00

場 所：オンライン会議

出席者： 山口育子、日吉裕展、若尾文彦、Brian Taylor Slingsby、Sarah Louise Barber、吉中丈志、渡邊能行、磯博康、古川壽亮、渡邊大、大森孝一、佐藤俊哉、山本洋介、川上浩司、田中司朗、今中雄一、和田敬仁、山田崇弘、中山健夫、西浦博、石見拓、近藤尚己、岩隈美穂、高橋由光、岡田浩、西川佳孝、佐々木典子

欠席者：野尻孝子、松井道宣

陪 席：森（大学院教務掛）

1. 開会あいさつ（専攻長）

専攻長から開会のあいさつが行われた。

2. 委員および社会専攻医学系専攻出席者の自己紹介

委員および社会専攻医学系専攻出席者から自己紹介が行われた。

3. 社会健康医学系専攻の全体像（専攻長）

専攻長から、社会健康医学系専攻の全体像について説明があり、主にアドバイザーボードの経緯、社会健康医学系専攻の20年の歴史、最近の学生像および研究費と研究業績について紹介された。

4. 社会健康医学系専攻の教育課程（教務委員会）

教務委員会副委員長から、社会健康医学系専攻の教育課程について説明があり、主にMPH5領域および課程とコースについて紹介された。

5. 各分野の教育活動等について

各分野の教員から、各分野の教育活動等について説明があった。

6. 意見交換（質疑応答、アドバイス等）

委員より以下の指摘、提案および質問があり、種々意見交換を行った。

- ・社会健康医学系専攻内で分野を超えた意見交換をする機会があればもっと素晴らしいことができるのではないか。
- ・分野を超えての共同研究に対して研究費を用意してはどうか。
- ・遺伝カウンセラーやこころのアプリなど社会に直接貢献する仕事も多くあると聞いたが、社会健康医学系専攻として一般市民への市民公開講座などの情報発信をされているのか。
- ・今年度オンラインで授業を行うことは問題なかったか。
- ・2020年のパブリックヘルスというと、COVID-19だが、社会健康医学系専攻としてCOVID-19の問題に取り組んでいるか。COVID-19に関わって社会健康医学系専攻から情報を発信して欲しい。

- これからの京都大学医学研究科社会健康医学系専攻のあり方、特に他の大学の社会健康医学系専攻との差別化についてどのような特色を出すのか。それに絡んだことになるが、教員選考をどのような方針で選んでいるか。
- アジアも含めて世界の大学とどのような協力をして、どのように国際的なアピールをしていくつもりなのか。
- 日本の社会健康医学として Universal Health Care や Aging など世界に誇れる成果があるが、それをどのように活かしているか。
- ダブルディグリーの制度を今後どのように発展させていくつもりなのか。
- 先生方のエフォートの記録を今後も残して行ってほしい。

以上